

2021年3月期 第3四半期決算説明資料



【 目 次 】

1. 損益の状況	(1) 第四北越フィナンシャルグループ連結	1
	(2) 2行合算	2
2. 金融再生法開示債権	2行合算	3
3. 有価証券の状況	(1) 第四北越フィナンシャルグループ連結	3
	(2) 2行合算	3
4. 預金等、貸出金残高	2行合算	4
5. 投資信託・公共債等預かり資産残高	2行合算	4

- (注) 1. 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 2行合算は旧第四銀行、旧北越銀行の単体計数を単純合算した計数です。
3. 前年同期比、2019年12月末比欄の計数は、表上の数値による計算結果を表示しております。
4. 自己資本比率につきましては現在算出中につき確定次第、開示致します。

1. 損益の状況

（1）第四北越フィナンシャルグループ連結

○連結粗利益…資金利益が11億円、役務取引等利益が2億円、その他業務利益が45億円それぞれ減益となったことから、前年同期比58億円減益の648億円となりました。

○経常利益…貸倒償却引当費用が9億円減少し、株式等関係損益が28億円増加したものの、連結粗利益の減益に加え、営業経費が13億円増加したこと等により、前年同期比45億円減益の137億円となりました。

○親会社株主に帰属する四半期純利益…以上の結果、前年同期比33億円減益の86億円となりました。

（単位：百万円）

		2021年3月期		2020年3月期	(参考) 2020年3月期
		第3四半期	前年同期比	第3四半期	
連結粗利益	1	64,847	△5,812	70,659	88,433
資金利益	2	46,505	△1,103	47,608	61,999
役務取引等利益	3	13,858	△206	14,064	19,640
その他業務利益	4	4,482	△4,504	8,986	6,793
営業経費	5	53,835	1,380	52,455	69,863
貸倒償却引当費用	6	5,072	△996	6,068	7,240
貸出金償却	7	687	△816	1,503	2,009
個別貸倒引当金繰入額	8	3,634	165	3,469	4,313
一般貸倒引当金繰入額	9	581	△278	859	542
延滞債権等売却損	10	4	4	—	—
その他	11	164	△72	236	375
貸倒引当金戻入益	12	—	—	—	—
償却債権取立益	13	728	351	377	452
株式等関係損益	14	7,501	2,806	4,695	6,676
その他	15	△462	△1,526	1,064	952
経常利益【148億円】	16	13,707	△4,565	18,272	19,410
特別損益	17	△155	△83	△72	132
税金等調整前四半期(当期)純利益	18	13,551	△4,649	18,200	19,542
法人税、住民税及び事業税	19	4,975	△1,939	6,914	6,988
法人税等調整額	20	△512	660	△1,172	△992
四半期(当期)純利益	21	9,088	△3,370	12,458	13,546
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	22	478	△54	532	670
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益【105億円】	23	8,609	△3,317	11,926	12,875

（注）1. 連結粗利益＝（資金運用収益－（資金調達費用－金銭の信託運用見合費用））
 ＋（役務取引等収益－役務取引等費用）＋（その他業務収益－その他業務費用）

2. 【 】は2020年度通期予想値

（参考）

（単位：百万円）

連結業務純益	24	11,381	△6,701	18,082	19,100
--------	----	--------	--------	--------	--------

（注）連結業務純益＝旧第四銀行業務純益＋旧北越銀行業務純益＋その他の会社の業務純益
 ＋関連会社業務純益×持分－内部取引

(2) 2行合算 (旧第四銀行+旧北越銀行)

- 業務粗利益…マイナス金利政策の長期化による有価証券利息の減少を主因に資金利益が29億円減益となったほか、役務取引等利益が1億円、その他業務利益が国債等債券損益や貸出債権売却益の減少等により40億円それぞれ減益となったことから、前年同期比71億円減益の592億円となりました。
- 実質業務純益…業務粗利益の減益に加え、経費が経営統合関連費用の増加を主因に13億円増加したことにより前年同期比84億円減益の97億円となり、国債等債券損益を控除したコア業務純益は前年同期比58億円減益の114億円となりました。なお、経営統合関連費用は、今年度をピークとし来年度以降は大幅に減少する見込みです。
- 経常利益…株式等関係損益が21億円増加し、ネット信用コストが10億円減少した結果、前年同期比68億円減益の128億円となりました。
- 四半期純利益…法人税等税金関係費用が15億円減少したこと等により前年同期比54億円減益の90億円となりました。

(単位: 百万円)

		2021年3月期 第3四半期	前年同期比	2020年3月期 第3四半期	(参考) 2020年3月期
業務粗利益	1	59,244	△7,105	66,349	82,202
(コア業務粗利益)	2	(60,994)	(△4,518)	(65,512)	(86,329)
資金利益	3	48,204	△2,908	51,112	65,858
うち投資信託解約損益	4	—	△218	218	—
役務取引等利益	5	9,589	△174	9,763	13,944
その他業務利益	6	1,450	△4,023	5,473	2,399
うち国債等債券損益	7	△1,750	△2,586	836	△4,126
経費 (除く臨時処理分)	8	49,516	1,325	48,191	64,043
うち人件費	9	23,981	△217	24,198	32,061
うち物件費	10	22,297	1,315	20,982	27,893
実質業務純益	11	9,728	△8,430	18,158	18,159
(コア業務純益) 【189億円】	12	(11,478)	(△5,843)	(17,321)	(22,286)
(コア業務純益 (除く投資信託解約損益))	13	(11,478)	(△5,625)	(17,103)	(22,286)
一般貸倒引当金繰入額①	14	593	△284	877	546
業務純益	15	9,134	△8,147	17,281	17,613
臨時損益	16	3,747	1,294	2,453	3,228
うち不良債権処理額②	17	4,049	△371	4,420	5,684
(貸倒償却引当費用①+②)	18	(4,643)	(△654)	(5,297)	(6,230)
うち貸倒引当金戻入益	19	—	—	—	—
うち偶発損失引当金戻入益	20	49	29	20	—
うち償却債権取立益	21	722	349	373	444
うち株式等関係損益	22	8,641	2,125	6,516	9,066
経常利益 【141億円】	23	12,882	△6,852	19,734	20,842
特別損益	24	△152	△101	△51	△85
うち固定資産処分損益	25	△137	△103	△34	△67
うち減損損失	26	15	△1	16	18
税引前四半期(当期)純利益	27	12,729	△6,954	19,683	20,756
法人税、住民税及び事業税	28	3,893	△1,866	5,759	5,419
法人税等調整額	29	△184	325	△509	△13
四半期(当期)純利益 【111億円】	30	9,020	△5,413	14,433	15,350
(参考)					
ネット信用コスト 14+17-19-20-21	31	3,871	△1,032	4,903	5,786

- (注) 1. コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益
 2. 実質業務純益＝業務粗利益－経費 (除く臨時処理分)
 3. コア業務純益＝コア業務粗利益－経費 (除く臨時処理分)
 4. 【 】は2020年度通期予想値

2. 金融再生法開示債権

2行合算（旧第四銀行＋旧北越銀行）

○不良債権額は前年同期比157億円増加し939億円となり、不良債権比率も0.33%上昇の1.82%となりました。引き続き低水準で推移しております。

○破産更生等債権は16億円、要管理債権は33億円それぞれ減少したものの、危険債権は205億円増加いたしました。

	(単位:億円)		(参考) (単位:億円)
	2020年12月末	2019年12月末比	2019年12月末
破産更生等債権	63	△ 16	79
破綻先債権	18	0	18
実質破綻先債権	45	△ 16	61
危険債権	823	205	618
要管理債権	51	△ 33	84
小計 (A)	939	157	782
正常債権	50,420	△ 1,216	51,636
債権額合計 (B)	51,359	△ 1,060	52,419
不良債権比率 (A) ÷ (B)	1.82%	0.33%	1.49%
			2020年9月末
			68
			20
			47
			782
			43
			893
			50,713
			51,607
			1.73%

3. 有価証券の状況

○第四北越フィナンシャルグループ
有価証券の評価差額は、満期保有目的で2億円、その他有価証券で587億円の含み益となりました。

○2行合算
有価証券の評価差額は、満期保有目的で2億円、その他有価証券で617億円の含み益となりました。

(1) 第四北越フィナンシャルグループ連結

	(単位:億円)				(参考)	(単位:億円)			
	2020年12月末					2020年9月末			
	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損	
満期保有目的	407	2	2	0	625	9	9	0	498
その他有価証券	24,032	587	917	330	24,558	684	1,031	347	24,539
株式	1,368	424	494	69	1,392	437	492	55	1,328
債券	14,663	71	115	43	13,988	167	182	14	14,683
その他	8,000	90	307	216	9,178	78	356	278	8,527
うち外国債券	4,084	228	229	1	4,465	186	190	4	4,406
									274
									275
									1

(2) 2行合算（旧第四銀行＋旧北越銀行）

	(単位:億円)				(参考)	(単位:億円)			
	2020年12月末					2020年9月末			
	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損	貸借対照表 計上額	評価差額	うち益	うち損	
満期保有目的	407	2	2	0	625	9	9	0	498
その他有価証券	23,910	617	952	334	24,452	759	1,112	352	24,408
株式	1,246	444	500	55	1,285	488	526	38	1,197
債券	14,663	93	136	43	13,988	202	215	13	14,683
その他	8,000	79	315	236	9,178	69	370	300	8,527
うち外国債券	4,084	231	232	1	4,465	187	192	4	4,406
									276
									278
									1

4. 預金等、貸出金残高

2行合算（旧第四銀行＋旧北越銀行）

○貸出金残高は、県内では新型コロナウイルスに伴う資金繰り支援などによって中小企業向けを中心に増加したものの、県外では大企業向けが減少したことから、全体では前年同期比1,061億円減少し、4兆9,727億円となりました。

○譲渡性預金を含めた預金等残高は、前年同期比5,760億円増加し、8兆1,072億円となりました。

（単位：億円）（参考）（単位：億円）

	2020年12月末	2019年12月末比	2019年12月末	2020年9月末
貸出金残高	49,727	△ 1,061	50,788	49,976
うち県内貸出金	38,771	651	38,120	38,702
うち中小企業等貸出	32,867	318	32,549	32,815
うち消費性貸出残高	13,438	376	13,062	13,349
預金等残高	81,072	5,760	75,312	79,758
うち県内預金等残高	79,354	5,797	73,557	78,004
うち個人預金等残高	53,704	2,829	50,875	52,572

（注）預金等残高＝預金＋譲渡性預金

5. 投資信託・公共債等預かり資産残高

2行合算（旧第四銀行＋旧北越銀行）

○預かり資産残高は前年同期比281億円減少し、8,266億円となりました。

保険が6億円増加したものの、投資信託が195億円、公共債が92億円それぞれ減少いたしました。

（単位：億円）（参考）（単位：億円）

	2020年12月末	2019年12月末比	2019年12月末	2020年9月末
預かり資産残高	8,266	△ 281	8,547	8,313
投資信託	1,680	△ 195	1,875	1,688
公共債	874	△ 92	966	898
保険	5,712	6	5,706	5,726

以 上